

親鸞さまの

【本文】

真実信 心うることは

末法濁世にまれなりと

恒沙の諸仏の証誠ごうじゃ しょうぶつ しょうじょうに

えがたきほどをあらはせり

【意訳】  
阿弥陀様を抛り所にさせて頂く心  
信心を得ることは

自分を抛り所にする事が極めて多  
いこの時代に於てとても稀なことな  
のです。

恒河ガンジス山の砂の数ほどの多  
くの仏様が、その事実を誠の心から  
証明しておられます。

本当に稀有なのだよと。

【私の味わい】

お念仏の詩人 榎本栄一さんはいのちが光るといふ次の詩を詠んでいます。  
ごらんなきの いのちが光る

お米 お魚 野菜など

作る人 漁る人 運ぶ人も

ほんに私は 十方無量の

御いのち

御勞 力にささえられ

仏様の御光に溢れ 照らされる実感を持た人だから詠える詩なのだと思います。  
人生相談の中でとても多いのが、自分には生きている価値がない、というものです。

これらはそれぞれの実情の差異はあれども、一つの共通項があります。それは

自分の方から自分の価値を作らなければならない、作るしかないという先入観です。

上手く行っている時は良いのです。それこそ自分には自分が作り上げた相応の価値が

あると違和感なく思えますから。しかし、ひと度暗転すると、それはあと言う間に

価値がない、になります。自分を抛り所にする、それは一見当然の常識であり頼りが

あるように見えて、実はとても脆いのではないのでしょうか。

私も 私達も 世の命は生まれてこの方ずっと仏様の光に照らされている 仏様を抛

り所にし、その光を蒙る人生に、自らの値打ちを疑う隙間はありませぬ (悠水